

# 地域包括ケアシステムを推進するために必要な退院支援の現状と課題

樫原理恵<sup>\*,1)</sup>、鶴田恵子<sup>1)</sup>、川村佐和子<sup>1)</sup>、佐久間佐織<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>聖隷クリストファー大学

## 【研究背景と目的】

我国では超高齢化を迎え、疾病を抱えた人の地域・包括ケアの必要性が叫ばれて久しい。高齢者や多様な疾患を抱えた患者・家族には入院中から、退院後の療養生活を見据えた支援が必要となる。2018年に改訂された退院支援加算により、要介護者に重点が置かれ、介護保険サービスとの連携が強化されている。患者・家族の療養生活を支え、医療知識を基盤としたケースマネジメントができる看護師を養成することが急務となる。そこで、本研究では地域・包括ケアを推進するためのリーダーシップを発揮できる看護師の育成プログラムの基礎資料として、現在実施されている退院支援の実態と課題を明らかにすることを目的とする。

## 【方法】

**1. 半構造的面接調査** 1) 研究参加者：退院支援加算 I を算定している病院に勤務し、退院支援役割を担っており、本研究に研究協力が得られた看護師。2) 面接内容：インタビューガイドをもとに①使用している退院支援シートの活用状況、②退院支援が入院直後に必要だった事例と内容、③入院3日以上経過してから退院支援を実施した事例と内容、④退院支援を行っていたが、再入院した事例と内容 3) 面接場所：研究参加施設で対象者と調整しプライバシーの保持できる個室を確保 4) 面接時間：一人当たり45分～60分程度 **2. データ分析** 面接で得られたインタビュー内容をデータ化し、質問内容ごとに内容を分析する。内容分析の手法を用い逐語録データを分析する。 **3. 倫理的配慮** 研究参加協力の得られた参加者に対し研究の主旨、研究目的、研究方法、研究協力と中断の自由、業務評価との無関係性、逐語録を作成するための録音の可否、倫理的配慮について文書と口頭で説明し、同意が得られた場合には同意書を2部作成し1部は研究者が、1部は研究参加者が保管した。なお、研究者が所属する機関の倫理審査の承認を得て実施した（承認番号18021）。

## 【結果および考察】

研究に同意の得られた退院支援看護師3名に対し半構造化面接を実施した。面接時間は36～49分であった。逐語録にしたインタビューデータの456の文脈の意味を損なわないようにコーディングし、退院支援の現状と課題に関わる346の文脈を抽出した。退院支援看護師は、病院内で「退院支援シートへの活用が推進されている」ものの、「病棟看護師の知識とコミュニケーション力の差」によって「患者・家族が必要としている支援を探索できる時期」が異なると認識していた。また、「システムとして病院内での情報共有が可能」であるが、家族背景や地域格差による「退院後の療養場所の選定の困難さ」を課題としていた。地域・包括ケアを推進するためには、「地域のケアマネージャーとの密な連携」が必要であり、情報共有の方略は病院独自で実践されていた。また、再入院する事例の多くが「夜間に吸引できないことによる誤嚥性肺炎」であった。

退院支援加算算定に必要なカンファレンスの開催はシステムとして組み込まれており、必要に応じ入院直後から退院支援が開始されていた。退院支援看護師は再入院や療養場所の選定が困難な事例を課題と認識していた。

倫理審査	■承認番号(18021) □該当しない				
利益相反	■なし ■あり( )				
発表状況	種別	□著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他( )			
	年月日	2019年 9月 14日 (□確定 ■予定)			